

県民総ぐるみ 地域・学校づくりのつどい

～子どもを中心に考えた地域づくり・学校づくり～

日南市立南郷小学校

教 頭

地域学校協働活動推進員

田中 寿幸

矢野 富子

◆ 話題・問題



学校運営協議会

本当に必要？



地域学校協働活動

なぜ、あるといいの？

◆問い

子どもを中心に考えた地域・学校づくりのためには、本当に学校運営協議会や地域学校協働活動（地域コーディネーター）は必要なのだろうか。

～南郷小の**実践**を通じた**声**による検証～

◆問いの検証1 学校運営協議会について

- 熟議の位置づけ
- 熟議から協働への具体例
- 学校運営協議会がある手応え
- 分かったこと

実践

声

○ 熟議の位置づけ1

第1回 学校運営協議会

- ・委任状交付
- ・組織等確認
- ・学校経営の説明とその承認

第2回 学校運営協議会(拡大会議)

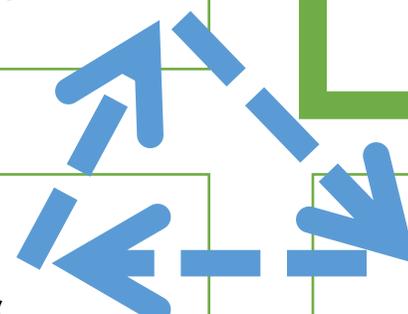
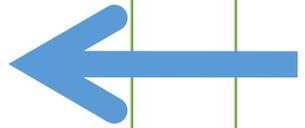
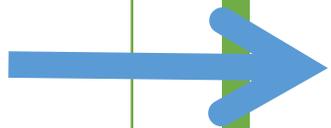
- ・教職員、PTA役員も交えて協議
- 「学力向上支援部」
- 「いのちを守る教育支援部」
- 「ふるさと学習支援部」

第4回 学校運営協議会

- ・学校評価に対する意見交換
- ・次年度に向けて

第3回 学校運営協議会

- ・授業等の見学
- ・実践等の報告や意見交換
- ・学校評価に向けた確認



○ 熟議の位置づけ2

キャリア教育支援部

学力向上支援部

南郷小PTA役員

南郷小教員

学校運営協議会委員

いのちを大切にする教育支援部



○ 熟議から協働への具体例

【いのちを大切にする教育支援部】

○議題

- ・地区と連携した避難訓練



○現状

- ・地区：防災訓練は行うが、子どもや親の参加は少ない。
- ・児童：半分以上は、自宅からの避難場所を知らない。



○案

- ・日曜を防災参観日→南郷防災の日
- ・8時：自宅から避難場所へ
- ・10時：学校へ集合し防災学習

8月



9月

「自治会長」「市危機管理課」「PTA役員」へ実施に向け相談・同意



10月

- ・実施計画の確立と準備
- ・PTA・地区民への周知



12月

- ・実施とふりかえり

○ 学校運営協議会の手応え

- 校長インタビュー

「学校運営の充実＝学校運営協議会の充実
実際にどんな手応えをもたれていますか。」

○ 学校運営協議会の手応え

▪ 委員や職員の声

	学校運営協議会あり	学校運営協議会なし
メリット	<p>○それぞれ地域への所属感や責任感が生まれる。</p> <p>○地域の人や学校とつながりやすくなり、学校にも地域にも安心感が生まれる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○事がスピーディーに動きやすくなったり、子どもたちの活動が充実したりする。</p>	なし
デメリット	なし	<p>○誰に相談すればよいか分からない。</p> <p>○事を動かすのに時間がかかる。</p> <p>○互いにどう考えているのか不安。</p>

○ 実践と声で分かったこと



目標共有



強化

【いのちを大切にする教育支援部】

○議題

- ・地区と連携した避難訓練



○現状

- ・地区：子どもや親の参加は少ない。

協働

からの避

安心感のある土壌の形成

学校運営協議会の熟議は、目標の共有を強化し、協働に向かう姿勢を生み出す。＝安心感のある土壌が形成される。

○案

- ・日曜を防災参観日→南郷防災の日
- ・8時：自宅から避難場所へ
- ・10時：学校へ集合し防災学習

◆問いの検証2 地域学校協働活動推進の実際

○ 矢野地域コーディネーターの紹介

実践

○ 矢野地域コーディネーターの生き方・考え方

○ 矢野地域コーディネーターがいる手応え

声

○南郷小 地域コーディネーターの紹介



★プロフィール★

- 平成20年より地域コーディネーターとして、学校運営充実に努める。
- 平成18年より放課後子ども教室職員として、生涯学習運営充実に努める。
- 令和元年より、南郷小 学校運営協議会委員を務める。
- 平成30年、日南市教育委員会 教育行政功労賞 受賞
- 令和2年、宮崎県 社会教育功労賞 受賞
- 令和5年、文部科学省 社会教育功労賞 受賞

○ 矢野地域コーディネーターの生き方・考え方



★やりがいは？

★地域人材とつながるコツは？

★持続可能とするポイントは？

○ 矢野地域コーディネーターがいる手応え

	地域コーディネーターがいる	地域コーディネーターがいない
メリット		
デメリット		

○ 実践と声で分かったこと



地域コーディネーターは、学校と地域の目標の共有と連携を強化し、協働に向かう姿勢を生み出している。
＝安心感のある学びの土壌が形成される。

安心感のある学びの土壌形成

◆ 問いに対する応え

子どもを中心に考えた地域・学校づくりのためには、本当に学校運営協議会や地域学校協働推進員（地域コーディネーター）は必要なのだろうか。

必要である。

まず、学校と地域が目標とその行動を共有できる。これは、子どもを中心に考えていることそのものである。

次に、その共有により、「お願いしやすさ」「動きやすさ」「つながりやすさ」「実現しやすさ」などの『安心感という土壌』が形成される。その土壌にこそ、学校と地域との協働は生み出され、地域と学校が創られていく。